

紅葉にはまだはやい

休みの羽田空港は朝から混んでいるのが当たり前。でも今回はちょっと違います。沖縄便や九州便に天候調査中の表示が。そうです、台風が近づいているのです。今日から鹿児島へ遊びに行くと言っていたKさんのことを心配しながら私は逆方向の庄内空港へ。機内サービスのコーヒークップを片づけてもらう間もなく飛行機は高度を下げ始めました。鳥海山と出羽三山を眺めながら海側から着陸。あっという間のフライトで山形県に到着です。紅葉にはまだ早いけど、風はすっかり秋のにおいです。

第19回 水郷水都全国会議に参加

今回の目的の一つは**水郷水都全国会議**に参加すること。なんと今年で19回を向かえるという歴史ある会議です。今回の会場となったのは鶴岡の奥座敷と言われる湯田川温泉。「たそがれ清兵衛」の撮影も行われたこの温泉地が舞台になったのには訳があるらしいのです。鶴岡市が水道水源を地下水からダムの水に切り替えた中でこの温泉地は水源に地下水を使っているらしいのです。温泉のお湯もすべてかけながしということでした。懇親会の食事も旅館での朝食も地元の食材を使ったもので、やはり水がいいのか、とてもおいしかったです。



湯田川のある正面湯

のべ150人の参加者を数えた今回の会議は、アットホームな雰囲気の中で開催されました。詳しいことはホームページに掲載されるとのこと。かなり事務局は力が入っていましたので期待してはいいのではないのでしょうか。会議の様子のストリーミング配信を予定しているそうですよ。川の日WSのHPも負けてはいられませんね。

サイダーの味ってこんなだった、かな？

会議のあとは秋田へ移動。秋田駅の都会度にびっくりしながら（スタバがあるなんて！）翌朝、レンタカーを借りていざ出発。今回の主な目的は雄物川をさかのぼり、十文字町でラーメンを食べることです。もちろんそれだけではありません。今回の水郷水都全国会議でもテーマとして扱われた湧水を町ぐるみで大切にしているという**六郷町**を訪れることです。私もガイドブックを見て初めて知ったのですが、その噴出量は静岡県柿田川湧水郡に次いで2番目とのこと。



見るからにおいしそう (Zoom)

国道13号からちょっと脇に入った静かな町なのですが、早速大きな看板と駐車場が。なにに、ビジターセンターもあるのか、と車をとめてぶらぶら歩いていると近所でとれた野菜の直売や名水を使ったアイスやドーナツの売っている場所を発見。その名も「手作り工房 湧子ちゃん」。その中で私の目を引いたのは名水を使ってつくった瓶入りのサイダー、「ニテコサイダー」。早速、レジで栓を抜いてもらい試してみました。その味はKレモンやMサイダーのように甘くなく、とてもすっきりした味です。同じくそこであげていたおからドーナツとともに食

せばもう最高でした。まず見た目においしそうなおボトルデザイン。この瓶で飲むのがおいしいんですよ。でも待てよ、確かに市販のサイダーとはちょっと味が違うけど、昔はこんな味だったのですかね。私が駄菓子屋で飲んでいたMサイダーとはちょっと違うけど、一口飲んだだけで郷愁を誘ってしまう、不思議なおいしさでした。忘れていました。ここの湧水郡は「名水百選」に選ばれています。

景気回復よりもてっとりばやい？

サイダー飲んで再び歩き始めると六郷町観光情報センター「清水の館」が見えてきました。パンフレットをとってのぞき込んでみると「こんにちは。おすすめの場所の地図です。どう



ぞ。」と秋田美人が中から出てきてくれました。歩いてまわれる距離に湧水が点在しているということ。地図に目をやりながら歩いていたのですが、平日にも関わらず観光客が歩いているのが目に付きます。湧水のまわりを掃除していた男性も「ほら、ここなんかたくさん湧いてるよ」と教えてくれました。六郷町には（失礼とは思いますが）決して恵まれた観光資源とか目玉になるものがあるとは思えません。でもこの湧水を守ってきたことは六郷町とそこに住む人々に結果として恵みをもたらしているような気がしました。今は名水が人を呼べる時代です。住民の生活に安らぎや潤いをもたらすのはもちろん、観光客は物産館でおみやげを買い、中には箱でニテコサイダーを買っていく人もいます（私もそのひとり）。経済効果です。人が来れば活気が出るし、そこで交流も生まれる。「湧水を保全することが長期的に町に景気回復をもたらす」なんて理論はどうでしょうか、竹中さん。



御台所清水